

NEWS 港湾ニュース

■「北海道マリンビジョン 21 コンテスト 2015 表彰式」について

北海道開発局 農業水産部 水産課

1 はじめに

平成 28 年 7 月 13 日に「北海道マリンビジョン 21 促進期成会」（以下、「期成会」という）の総会が、ホテルポールスター札幌にて開催されました。

この総会に併せて、「北海道マリンビジョン 21 コンテスト 2015」の表彰式を執り行いましたので報告します。

2 北海道マリンビジョン 21 コンテスト表彰式

各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献する優れた取組を表彰し、取組の更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会が主催となり「北海道マリンビジョン 21 コンテスト」を平成 20 年度から開催しています。北海道開発局はこの取組について



総合部門：根室地域（歯舞地区）



個別取組部門：大津地域（左）、積丹地域（右）
表彰状授与の様子

後援しています。

今回、第 8 回目となるコンテストでは、総合部門（北海道開発局長賞）に根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会（4 回目）、個別取組部門（期成会長賞）に積丹地域マリンビジョン協議会（2 回目）と大津地域マリンビジョン協議会（初）が受賞し、それぞれ表彰状が授与されました。

受賞の概要

●根室地域（歯舞地区）

歯舞ブランド品の販売促進のため、地元のお祭りのほか関東・関西圏で PR を図り、歯舞ブランドの先駆けである「はほまい昆布しょうゆ」を使用した焼きおにぎりを大手コンビニエンスストアと連携し、期間限定で販売しました。また、観光遊覧船の運航は、道内外のほか海外からも乗船者があり、乗船した愛鳥ファンや観光客から好評を得ています。さらに、修学旅行誘致事業では、漁業者宅で民泊しながら漁業体験を通じて漁業を身近に感じてもらう取組や、漁協女性部による料理講習会を開催して消費拡大を図るほか、SNS を活用した情報発信を行うなど、地域と水産業全体での取組を基礎として力強い継続力を持った活動であることが評価されました。

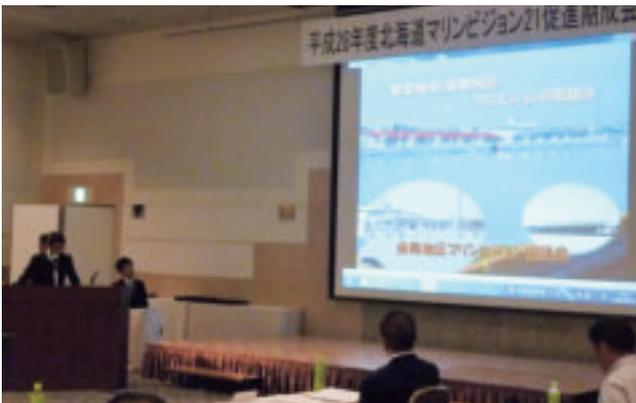
●積丹地域

自然環境を利用しながら夏期だけに依存しない通年型観光化へ向けて、自然回帰型のサケ資源増大に向けた簡易魚道の設置、地元の海を育む森林保全活動や、早春のさくらますの保護水面の PR 活動は観光シーズンの延長につながり、水中展望船の運航期間延長は交流人口の増となっています。また、市場に流通しない規格外の甘エビを使い地元菓子店と協力して開発した商品（えびサブレー）は、新たな積丹のお土産として好評を得るなど、地域が一体となった施策とするため、マリンビジョン協議会の構成員のみならず、町内の各

種団体等と連携して幅広く取り組んでいることが評価されました。

●大津地域

大規模災害発生後も漁業生産活動を継続していくため、東日本大震災の被災状況を検証し、業務継続計画（BCP）を作成しました。作成にあたっては、大津地域マリンビジョン計画と連携、補完しあうことで、地域漁業生産の継続の実現を図るため、常に浜のニーズを把握し、できることから前提としているほか、最悪の人的被害も想定し、残された者で対応可能となるよう連絡先を常備し、担当者不在にも対応できるよう工



根室地域（歯舞地区）



大津地域



積丹地域
受賞地域の取組事例報告の様子

夫を行うなど、今後も漁業地域の保全を行う取組の発展性が見込まれるものとして評価されました。

なお、受賞地域の概要と選定理由については、北海道開発局ホームページでも公開しています。

(http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_zygyo/mv/contest/contest_2015_kekka.pdf)

表彰式の後、受賞した3地域の協議会から取組の事例報告を行いました。

3 報告、講演会

総会の後、報告と講演会を行いました。

報告は、開発局水産課から「地域マリンビジョン取組の推進に向けて」と題して、これまでの取組状況から見えた課題に対して、取組の推進に向けた見直しの検討を行っていくことの情報提供を行いました。

講演会は、中央大学研究開発機構の片石温美准教授から「女性の視点を活かした地域マリンビジョンの推進」と題して講演をしていただきました。

開発局が開催している「マリンビジョン女性交流会議」の目的とこれまでの活動経過の報告、昨年度の女性交流会議の中で出された意見を紹介しました。

意見の一部を紹介しますと、漁港内では女性も多く活動していることから、今後漁港整備を進めていくには、施設検討段階から積極的に女性を入れて説明・意見聴取する場を設けることで、女性ならではの視点を把握できるため有効である。また、女性の視点による意見を取り入れた整備（ソフト・ハード）が行えると、ひいては後継者やお嫁さんの確保にもつながるといった意見が出されていました。

このような意見を踏まえ、女性の視点による意見を地域マリンビジョンへ取り込み、取組を推進することが重要と考えられるため、フォローアップ委員会を活用しながら、地域の取組状況を確認し、取組が推進されることを期待していますと講演を締め括りました。

